

ワイヤレス マイクロホンシステム

取扱説明書

ご購入いただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ご注意

本システムの送信機は、電波法第四条、電波法施行規則第六条により、技術基準適合証明を受けております。技術基準適合証明ラベルをはがしたり、本機の内部を改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

UWP-X5

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

故障したら使わない

お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落としたら



- ① 電源を切る。
- ② バッテリーまたは外部電源ケーブル、およびすべての接続ケーブルを抜く。

- 炎が出たら



- ① お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる可能性があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示

目次

⚠ 警告	5
⚠ 注意	6
電池についての安全上のご注意	7
商品の構成	8
特長	9
本機の性能を維持するために	10
使用チャンネルの選択	11
チャンネルプラン	11
各部の名称と働き	12
ボディパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）	12
ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）	14
ヘッドセットマイクロホン（付属）	15
電源	15
電池を入れる	15
乾電池残量の表示	16
取り付けと組み込み	17
ボディパックトランスミッター（UTX-B1）への付属品 取り付け	17
ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）の組 み込み	19
設定	20
送信チャンネルを設定する	20
受信チャンネルを設定する	21
空きチャンネルを自動設定する	22
音声入力のアッテネーターレベルを設定する	23
使用積算時間をリセットする	23
アンテナ出力のレベルを設定する	24
操作	25
システム構成例	26
エラーメッセージ	26

故障かなと思ったら	27
主な仕様	29
送信機 (UTX-B1)	29
受信機 (URX-M1)	29
保証書とアフターサービス	30
保証書	30
アフターサービス	30



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

内部に水や異物を入れ ない

水や異物が入ると火災の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、バッテリーまたは外部電源ケーブルや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。



指示

指定の電圧および極性 で使用する

規定外の電圧および極性で使用すると、火災の原因となることがあります。この取扱説明書に記されている電圧および極性で使ってください（15～16ページ参照）。



禁止

外部電源ケーブルを傷 つけない

外部電源ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 外部電源ケーブルを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 外部電源ケーブルを抜くときは、必ずコネクタを持って抜く。

万一、外部電源ケーブルが傷んだら、ソニーの業務用製品ご相談窓口に交換をご依頼ください。



禁止

雨のあたる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない

上記のような場所やこの取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境、およびパワーアンプなど発熱体の近くで設置・使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



禁止

集音以外の目的に使用しない

集音以外の目的でご使用になりますと、思わぬ事故、火災やけがの原因となることがあります。



分解禁止

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。

内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。



注意

使用時は周囲の状況に注意を払う

周囲の状況を把握しないままご使用になりますと、事故やけがなどの原因となります。



注意

ヘッドバンド装着時、目に入らないように注意する

ヘッドバンドを装着するとき、目に入らないよう注意してください。



指示

電源の ON/OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

電源の ON/OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



指示

受信待機時には、接続した機器の入力を絞る

受信待機時や RF レベルが小さくなったときは、大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



指示

運搬時には、マイクロホンケーブルを取り外す

送信機を運搬する際には、マイクロホンケーブルを必ず取り外してください。マイクロホンケーブルに引っ掛かると、転倒や落下の原因となることがあります。



指示

長時間使用しないときは、イヤークリップを耳から外しておく

長時間使用しないときは、送信機のイヤークリップを耳から外しておいてください。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機で使用可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
 - ① 機器の電源スイッチを切るか、電池を抜く。
 - ② ソニーのサービス窓口へ連絡する。
- 電池の液が目に入ったら
すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- 電池の液が皮膚や衣服に付いたら
すぐにきれいな水で洗い流す。
- バッテリー収納部内で液が漏れたら
よくふき取ってから、新しい電池を入れる。

警告

- 機器の表示にあわせて⊕と⊖を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れてはいけない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多い場所で使用しない。
- 液漏れした電池を使用しない。
- 電池を使い切ったときや、長時間使用しないときは本体から取り出す。

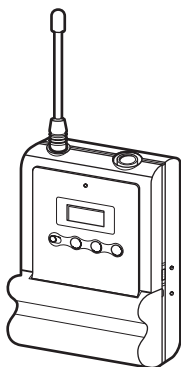
注意

- 外装のチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。
- 火のそばや直射日光が当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。

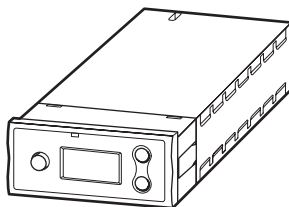
商品の構成

UWP-X5は、ボディーパケットランスミッター（送信機：UTX-B1）とダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）のセットです。チューナーモジュールをチューナーベースユニットやパワーDMキサーに組み込むことにより、目的の用途、規模に合わせたシステムの構築が可能です。

ボディーパケットランスミッター（UTX-B1）（1）

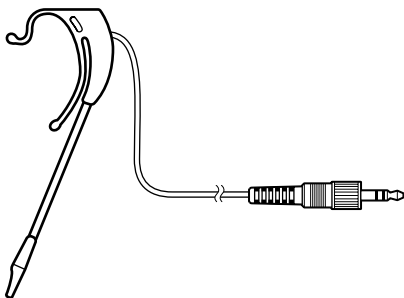


ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）（1）



付属品

ヘッドセットマイクロホン（ECM-322BMP相当）（1）



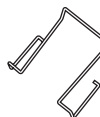
ヘッドバンド（1）



クリップ（1）



ベルトクリップ（1）



取扱説明書（1）

特長

ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-X5 は、送信機（ボディーパケットランスミッター（UTX-B1））と受信機（ダイバーシティチューナーモジュール（URX-M1））の組み合わせです。チューナーベースユニットやパワードミキサーなどと組み合わせて AV プレゼンテーションなどに使用できます。

ご注意

UWP-X5 は、従来のトランスミッター（WRT シリーズ）、チューナー（WRR シリーズ）、チューナーユニット（WRU シリーズ）との互換性はありません。

パッケージを構成する各機器と、付属のヘッドセットマイクロホンの特長は次の通りです。

ボディーパケットランスミッター（送信機：UTX-B1）

水晶制御 PLL シンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量のトランスミッターです。送信出力は 10 mW/2 mW の切り換えが可能です。

ダイバーシティチューナーモジュール（受信機：URX-M1）

チューナーベースユニット MB-806 やパワードミキサー SRP-X500P などに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

ヘッドセットマイクロホン（付属）

感度や音質を損なわない集音を可能とする全指向性カプセルと、左右どちらの耳にも簡単に装着できるイヤークリップ、カプセルケースの位置・角度の微調整時に自由に曲げられるブームを採用したエレクトレットコンデンサーマイクロホンです。

本機の性能を維持するために

- UWP-X5の機器は周囲温度0℃～40℃の範囲で使用してください。
- UWP-X5の機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-X5の機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。
- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナー

やベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

使用チャンネルの 選択

UWP-X5 は、B 型帯域 30 チャンネルのうち、任意に選択したチャンネルを使用できます。

UWP-X5 を同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。

はじめに受信機のグループを指定し（00 グループ以外）、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。送信機の送信チャンネルを、受信機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

チャンネル	周波数 (MHz)
B-32	806.875
B-33	807.375
B-34	808.250
B-35	808.625
B-36	809.250
B-41	806.750
B-42	807.500
B-43	808.000
B-44	809.125
B-45	809.375
B-46	809.750
B-51	807.625
B-52	808.125
B-53	808.375
B-54	808.750
B-55	809.625
B-61	807.250

チャンネルプラン

B 型標準チャンネルプラン表

チャンネル	周波数 (MHz)
B-11	806.125
B-12	806.375
B-13	807.125
B-14	807.750
B-15	809.000
B-16	809.500
B-21	806.250
B-22	806.500
B-23	807.000
B-24	807.875
B-25	808.500
B-26	808.875
B-31	806.625

受信機内蔵チャンネルプラン表

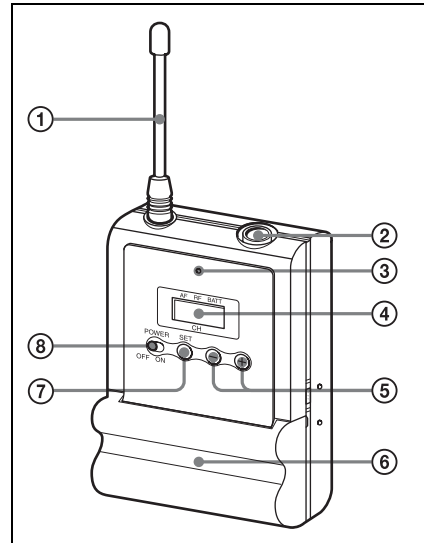
グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

さらに、上記のチャンネルプラン以外に 7 チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが 2 つあります（下表）。

グループ名	B-7	B-8
チャンネル名	B-11	B-21
	B-12	B-31
	B-33	B-13
	B-52	B-14
	B-54	B-25
	B-36	B-16
	B-55	B-46

各部の名称と働き

ボディーパケットトランスミッター（送信機：UTX-B1）



❶ アンテナ

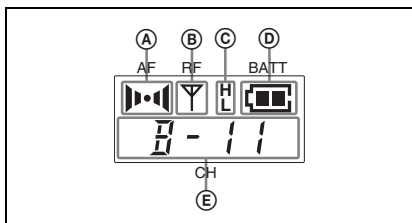
❷ 音声入力端子

付属のヘッドセットマイクロホンを接続します。

❸ パワーインジケータ

本機の電源がONになっているとき赤く点灯します。

❹ ディスプレイ部



④ AF (音声入力) インジケータ
基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

⑤ RF (アンテナ出力) インジケータ
アンテナから信号を送信しているときに点灯します。

⑥ RF (アンテナ出力) レベルインジケータ
アンテナ出力のレベルを表示します。

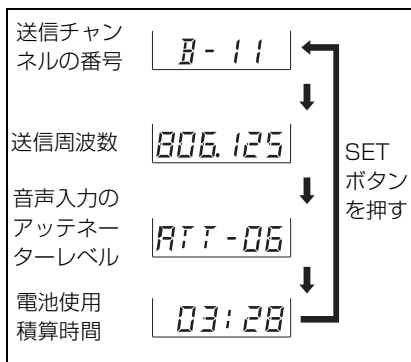
◆ 詳しくは「アンテナ出力のレベルを設定する」(24 ページ) をご覧ください。

⑦ BATT (バッテリー残量) インジケータ
乾電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」(16 ページ) をご覧ください。

⑧ CH (チャンネル) インジケータ
送信チャンネルの番号を表示します。
SET ボタンを押すたびに、表示は送信チャンネルの番号、送信周波数、音声入力のアッテネーターレベル、電池使用時間の順に切り替わります

◆ 詳しくは「設定」(20 ページ) をご覧ください。



⑨ + / - (設定値の増/減および電池の使用積算時間表示リセット) ボタン

+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。
電池の使用時間を表示している場合は、- ボタンを押すと、表示が「00:00」に戻ります。

⑩ 電池ケース
単三型アルカリ乾電池 2 本を入れます。

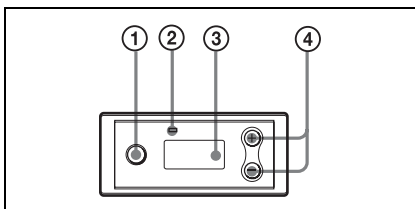
◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(15 ページ) をご覧ください。

⑪ SET (設定) ボタン
このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や、設定する項目を変更します。

◆ 詳しくは、「設定」(20 ページ) をご覧ください。

⑫ POWER (電源) スイッチ
本機の電源を ON/OFF します。

ダイバーシティーチューナーモジュール (受信機: URX-M1)



① SET (設定) ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

◆ 詳しくは、「設定」(20 ページ)をご覧ください。

② RF (高周波入力) インジケーター

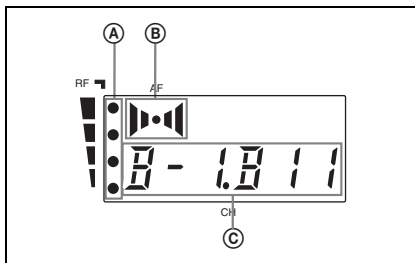
入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

緑色で点灯: 入力レベルは $25 \text{ dB}\mu^*$ 以上

消灯: 入力レベルは $25 \text{ dB}\mu^*$ 以下

$0 \text{ dB}\mu = 1 \mu \text{ V}_{\text{EMF}}$

③ ディスプレイ部



④ RF (高周波入力) 表示

高周波入力のレベルを表示します。入力レベルより点灯するドット (•) の数が変わります。

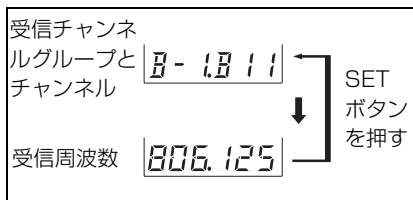
⑤ AF (音声出力) 表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

⑥ CH (チャンネル) 表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SET ボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数の順に切り替わります。

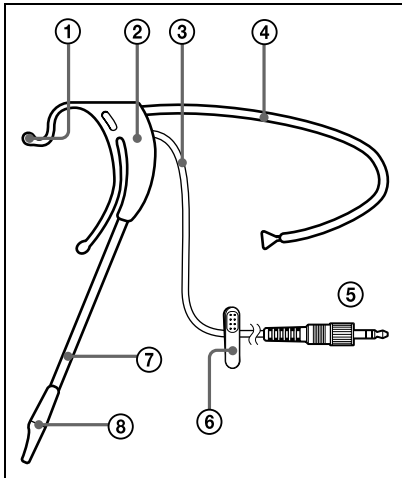
◆ 詳しくは、「設定」(20 ページ)をご覧ください。



⑦ + / - (設定値の増 / 減) ボタン

+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。

ヘッドセットマイクロホン (付属)



- ① イヤークリップ
- ② ケース
- ③ マイクロホンケーブル
- ④ ヘッドバンド (付属)
- ⑤ コネクター (ロック付きミニプラグ)
- ⑥ クリップ (付属)
- ⑦ ブーム
- ⑧ カプセルケース

電源

ここでは各機器の電源について説明しています。

ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M1)

電源は組み込み先の機器 (MB-806、SRP-X500P など) から供給されます。

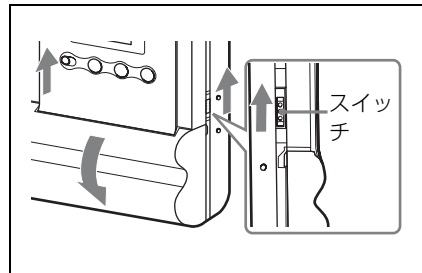
- ◆ ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M1) の電源について詳しくは、組み込み先機器の取扱説明書をご覧ください。

ボディーパケットランスミッター (UTX-B1)

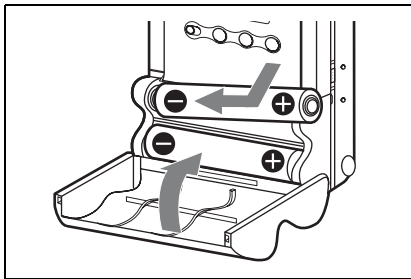
単3形アルカリ乾電池2本で連続約6時間動作します (使用温度 25℃時)。各機器の電池の入れかたと、電池の残量表示について下記の項目で説明しています。

電池を入れる

- 1 側面両側のスイッチを同時に矢印の方向にスライドさせて、電池ケースのふたを開ける。



- 2 新しい単3形アルカリ乾電池2本の⊕と⊖を確認して入れ、ふたを閉める。



ご注意

交換した乾電池が新しくない場合は、乾電池の残量が正しく表示されない場合があります。

長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめいたします。

乾電池についてのご注意

乾電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。





- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず2本とも新しい乾電池と交換してください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、電池ケースや本体についた液をよくふき取ってから、新しい乾電池を入れてください。または、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

乾電池残量の表示

POWER スイッチを ON にすると、ディスプレイ部に本機の乾電池の残量が表示されます。

下記の表の4の表示が点滅し始めたら、直ちに乾電池を2本とも新しいものと交換してください。

新しい乾電池は、記載されている使用推奨期限を確認の上使用してください。

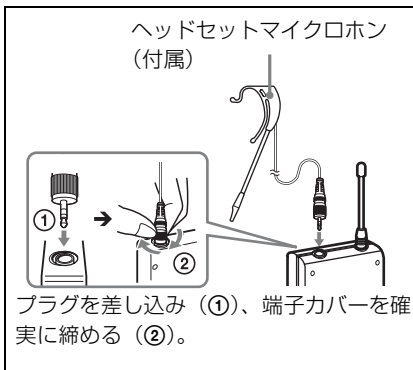
	BATT 表示	乾電池の状態
1	点灯 	良好
2	点灯 	残量 50% 以下
3	点灯 	残量 20% 以下
4	点滅 	ほとんど消耗している

取り付けと組み込み

ここではボディーパケットランスミッター (UTX-B1) への付属品の取り付けかたと、ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M1) のチューナーベースユニット MB-806 とパワーDMキサー SRP-X500P への組み込みかたについて説明しています。

ボディーパケットランスミッター (UTX-B1) への付属品取り付け

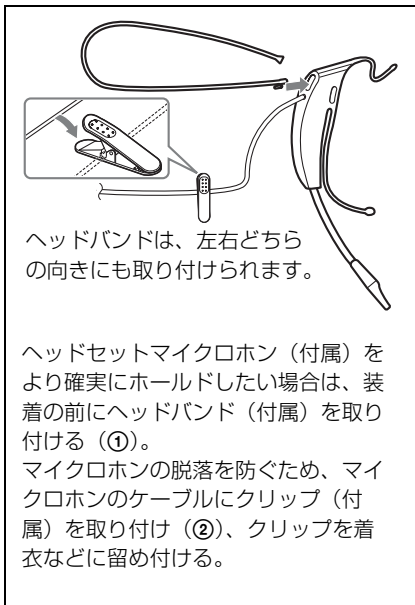
ヘッドセットマイクロホンを取り付ける



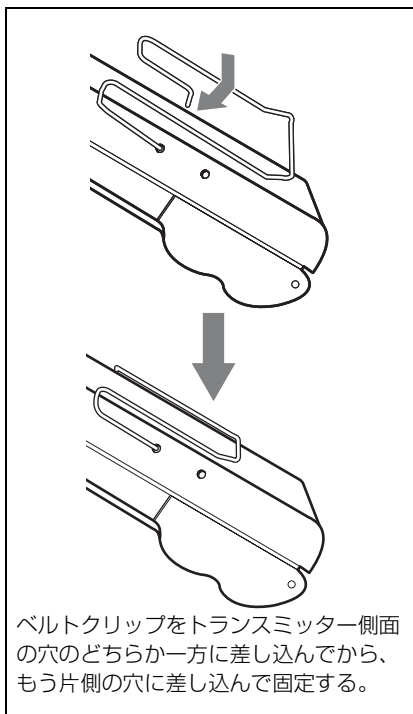
ヘッドセットマイクロホンを装着する



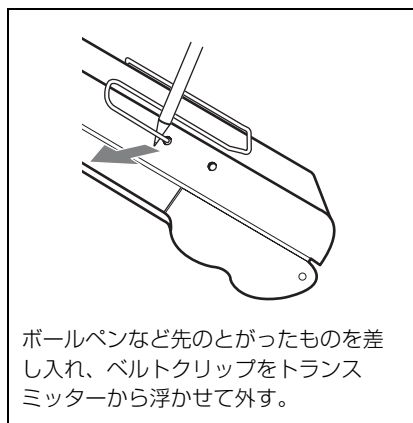
ヘッドバンドとクリップを取り付ける



ベルトクリップを取り付ける



ベルトクリップを外すときは



ダイバーシティチューナーモジュール (URX-M1) の組み込み

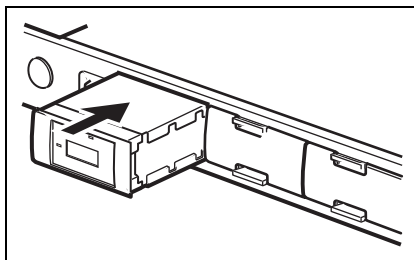
ご注意

- 必ず組み込み先の機器の電源をOFFにしてからチューナーモジュールを組み込んでください。
- チューナーモジュール前面のボタンや表示部を強く押すとこわれることがあります。必ずチューナーモジュールの側面を持ってください。
- チューナーモジュール後面の端子部や、チューナーユニット内部に手を触れないでください。
- 静電気にご注意ください。

チューナーユニット MB-806 に組み込む

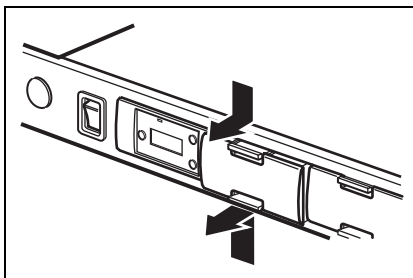
MB-806 には、ダイバーシティチューナーモジュール (URX-M1) を6台まで組み込むことができます。

- 1 チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、カチッと音がするところまで押し込む。

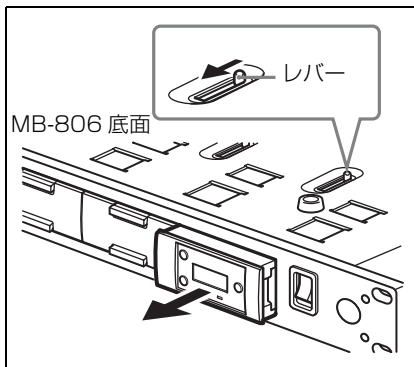


- 2 2台以上のチューナーモジュールを取り付けるときは、ブランクパネルの上下タブを押してブランクパネル

を外し、1台ずつ上記の手順1を行う。



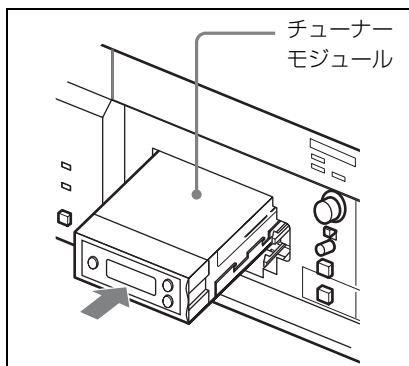
チューナーモジュールの取り外しかた
MB-806 底面の、チューナーモジュールを取り付けたスロットに対応するレバーを手前に引くと、チューナーモジュールがスロットから出てきます。



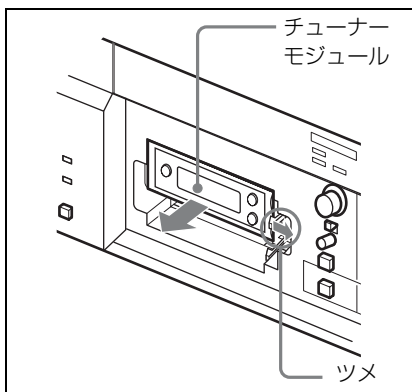
パワードミキサー SRP-X500P に組み込む

SRP-X500P には、ダイバーシティチューナーモジュール (URX-M1) を2台まで組み込むことができます。

- 1 SRP-X500Pのチューナーカバーを外し、チューナーモジュールの上下を確認して押し込む。



チューナーモジュールの取り外しかた
チューナーモジュールを固定しているツメを横に引っ張りながら取り出します。



設定

送信チャンネルを設定する

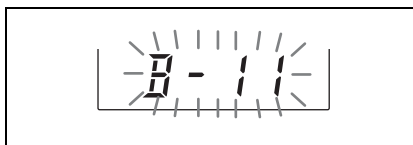
この操作の対象：UTX-B1

◆ 選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」(11ページ)を参照してください。

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。

電源を切る前に表示されていた設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押し、チャンネル番号を点滅させる。



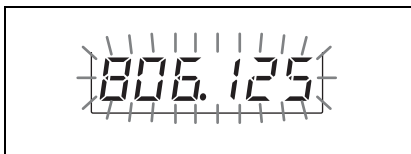
- 3 + または - ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

- 4 POWER スイッチを OFF にしていったん設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

周波数を表示させてチャンネルを選択するには

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。
- 2 SET ボタンを繰り返し押しして、周波数表示を点滅させる。



- 3 +または-ボタンを押して、希望の周波数を選択する。
- 4 POWER スイッチを OFF にしていったん設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

ご注意

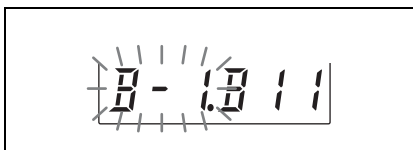
- 送信チャンネル設定中には、送信はできません。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

受信チャンネルを設定する

この操作の対象：URX-M1

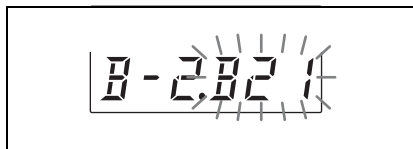
- ◆ 選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」(11ページ)を参照してください。

- 1 SET ボタンを1秒以上押ししたままにする。
設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押ししたままにしてください。
- 2 SET ボタンを繰り返し押しして、チャンネルグループ表示を点滅させる。



- 3 +または-ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



ご注意

10秒間どのボタンも押さないと、表示の点滅が止まり、その時点での設定内容が記憶されます。この動作

は、他の項目を設定する場合も同じです。

- 4** +または-ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

希望のチャンネル番号が表示されたら、どのボタンも押さずにそのまま放置します。約 10 秒間後に表示の点滅が止まり、表示されているチャンネルが確定します。

周波数を表示させてチャンネルを選択するには

- 1** SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2** SET ボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。



- 3** +または-ボタンを押して、希望の周波数を選択する。

希望の周波数が表示されたら、どのボタンも押さずにそのまま放置します。約 10 秒間後に表示の点滅が止まり、表示されている周波数が確定します。

ご注意

- 受信チャンネル設定中でも、受信はできません。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

空きチャンネルを自動設定する

この操作の対象：URX-M1

ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M1) を MB-806 に組み込んで多チャンネル同時運用を行う場合、スロット **1** に挿入したチューナーモジュールに対してチャンネルグループ設定を行うと、他のチューナーモジュールを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

- 1** トランスミッターの電源をすべてオフにする。
- 2** スロット **1** のチューナーモジュールで、使用するチャンネルグループを設定する。
- 3** チャンネルグループ表示が点滅から点灯に変わったの確認してから (設定から約 10 秒後)、スロット **1** の

チューナーモジュールの+ボタンを3秒以上押したままにする。

MB-806 に組み込まれたすべてのチューナーモジュールが、同じグループの異なるチャンネルに自動的に設定されます。

自動設定後、各チューナーモジュールのグループ及びチャンネルを、手動で変更することもできます。

ご注意

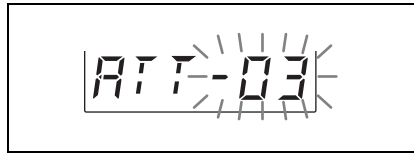
- 空きチャンネルの自動設定は、チャンネルグループ00以外で行ってください。
- 外来電波などの影響で運用できないチャンネルがあった場合、チャンネルの設定ができなかったチューナーモジュールのディスプレイ部に「NO CH」と表示されます。この場合は、外来電波のない別のチャンネルグループを選択して、上記の手順を再度行ってください。

音声入力のアッテネーターレベルを設定する

この操作の対象：UTX-B1

1 送信していないとき

SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にし、SET ボタンを繰り返し押してアッテネーターレベル表示を点滅させる。



送信しているとき

SET ボタンを繰り返し押してアッテネーターレベルを表示させる。

2 +または-ボタンを押して、希望のアッテネーターレベルを表示させる。

設定できる範囲は0 dB ~ 21 dB (3 dB ステップ) で、初期値は0 dB です。

3 送信していないとき

POWER スイッチをいったん OFF にして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

使用積算時間をリセットする

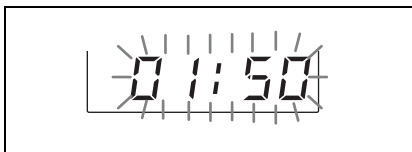
この操作の対象：UTX-B1

使用時間の表示は、本機の電源が入っている時間の合計を時間と分で表示します。乾電池を交換したときに表示を「00:00」に戻しておく、乾電池の積算使用時間がわかって便利です。

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押し、使用積算時間表示を点滅させる。



- 3 - ボタンを押す。

表示は「00:00」に戻ります。「00:00」が点滅している間に+ボタンを押すと、手順2で表示していた値に戻ります。

- 4 POWER スイッチをいったんOFFにして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

- 2 SET ボタンを繰り返し押し、アンテナ出力のレベル表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望のアンテナ出力レベルを表示させる。

H を選択するときは+ボタンを、L を選択するときは-ボタンをそれぞれ押します。

- 4 POWER スイッチをいったんOFFにして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

アンテナ出力のレベルを設定する

この操作の対象：UTX-B1

アンテナ出力のレベルを、H (10 mW) または L (2 mW) のいずれかに設定できます。複数のチャンネルを同時に運用するときはLに、広い空間で使用するときにはHに設定します。

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチをONにする。

操作

この操作の対象：UTX-B1 および URX-M1

- 1 必要に応じて、受信機の接続をする。
 - ◆接続例について詳しくは、「システム構成例」(26ページ)をご覧ください。
- 2 送信機の送信チャンネルを設定し、いったん電源を切る。
 - ◆送信チャンネルの設定について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」(20ページ)をご覧ください。
- 3 受信機のPOWERスイッチをONにして電源を入れる。

前回使用時に電源を切る前に表示されていた内容がディスプレイ部に表示されます。

ご注意

電源をONにするとノイズが発生しますので、受信機に接続した機器の入力をしばらくしてから電源を入れてください。
- 4 受信機の受信チャンネルを設定する。
 - ◆受信チャンネルの設定について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」(21ページ)をご覧ください。
- 5 送信機の電源を入れる。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。

このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源をOFFにしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RFインジケータ(またはディスプレイ部のRF表示)が点灯していないチャンネル(雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル)を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

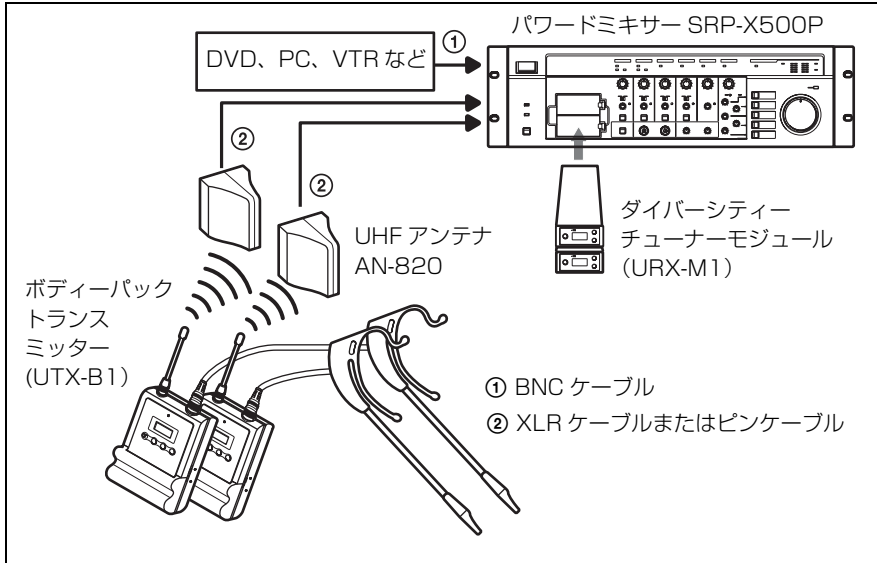
ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWP-X5を同時に2組以上使用する場合は同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに3m以上離して使うことをおすすめします。
- 2組以上のUWP-X5で同一のチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100m以上離してください。(距離は使用環境により異なります。)

システム構成例

以下のシステム構成は、AV プレゼンテーションシステムでの使用例です。



エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
Err 01	ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。	ソニーのサービス窓口にお持ちください。
Err 02	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。
Err 03 *	電源電圧が許容値を超えています。	指定の電池をお使いください。

* ボディパックトランスミッター (UTX-B1) のみ

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。*	電池の⊕と⊖が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕ 端子、⊖ 端子を綿棒でクリーニングしてください。
電池がすぐになくなる。*	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
チャンネルの変更ができない。	設定モードに入っていない。	SET ボタンを押しながら電源を入れて、ディスプレイ部のチャンネル表示を点滅させてから、+/- ボタンで変更してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	受信機の RF インジケータが点灯しない。	送信機と受信機の電源を確認してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	出力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。

症状	原因	対策
音切れ、ノイズが発生する。	送信機の電源を切っても、受信機のRF インジケータが点灯している。	妨害電波が出ています。まず、受信機をRF インジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。2本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで2本以上の送信機は使用できません。「チャンネルプラン」(11ページ)に従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない	本機のチャンネルプランは、2本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。

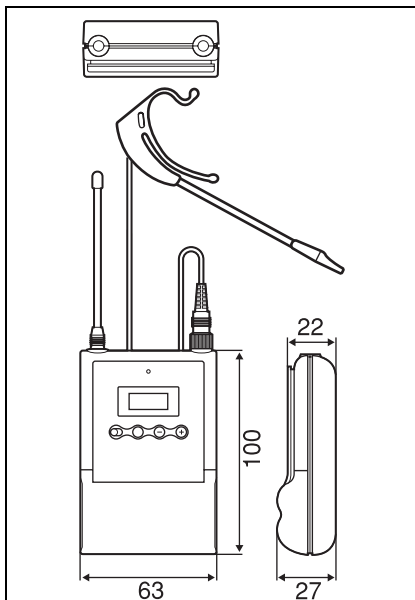
* ボディーパケットランスミッター (UTX-B1) のみ

主な仕様

送信機 (UTX-B1)

局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
搬送波周波数	806 MHz ~ 810 MHz
周波数帯域	4 MHz BW
RF 出力レベル	10 mW / 2 mW (選択可)
プリエンファシス	50 μ s
基準偏差	\pm 5 kHz
周波数特性	50 Hz ~ 15 kHz
ひずみ率	1.0% 未満
S/N 比	60 dB 以上
トーン信号周波数	32 kHz
アッテネーター	0 ~ 21 dB (3 dB ステップ)
ディスプレイ部	チャンネル、周波数、音声レベル、RF レベル、使用積算時間
インジケータ	通電
電源電圧	3.0 V DC (単三型アルカリ乾電池 2 本)
電池寿命	約 6 時間
アンテナ	波長 1/4 λ ワイヤアンテナ
音声入力端子	ϕ 3.5 mm ミニジャック
音声入力レベル	- 60 dBV ~ - 39 dBV

外形図



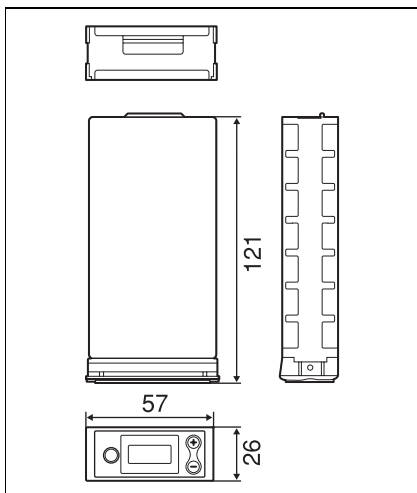
寸法	63 × 100 × 27 mm (幅/高さ/奥行) (アンテナ含まず)
質量	140 g (乾電池含む)

受信機 (URX-M1)

受信方式	スペースダイバーシティー方式
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
受信周波数	806 MHz ~ 810 MHz
周波数帯域	4 MHz BW
S/N 比	60 dB 以上
ディエンファシス	50 μ s
基準偏差	\pm 5 kHz
周波数特性	50 Hz ~ 15 kHz

ひずみ率	1.0% 未満 (1kHz 変調)
トーン信号	32 kHz
インジケータースケルチレベル	RF 入力レベル 25 dB μ
ディスプレイ部	チャンネル、周波数

外形図



寸法	57 × 26 × 121 mm (幅／高さ／奥行き)
質量	150 g

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- * この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- * 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea